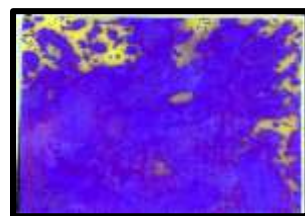


# スプリンクラー防除による植栽程度の異なるカンキツ園での薬液付着程度

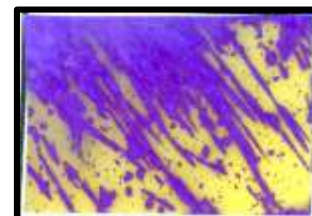
本県では、多目的スプリンクラーによる防除が多く実施されているが、近年、管理不足による密植園が多く見られており、そのような園では、薬液の付着が不十分であることが考えられた。そのため、植栽程度の異なる園でのスプリンクラー防除の薬液付着状況について調査した。



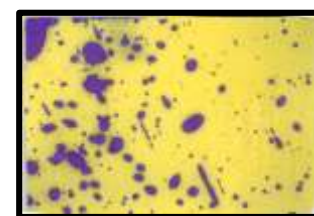
感水紙の設置状況  
濡れると黄色→紫色となる



付着程度8



付着程度6



付着程度3

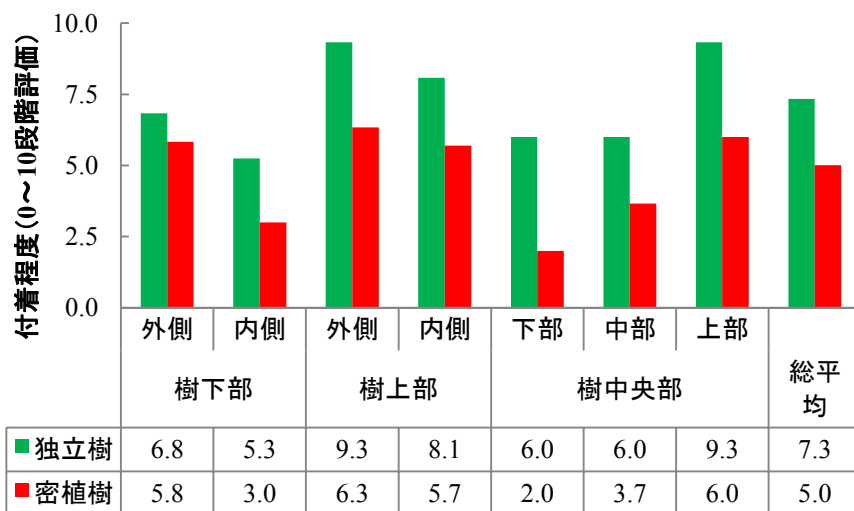


図1 スプリンクラー防除での薬液の付着程度【葉表】

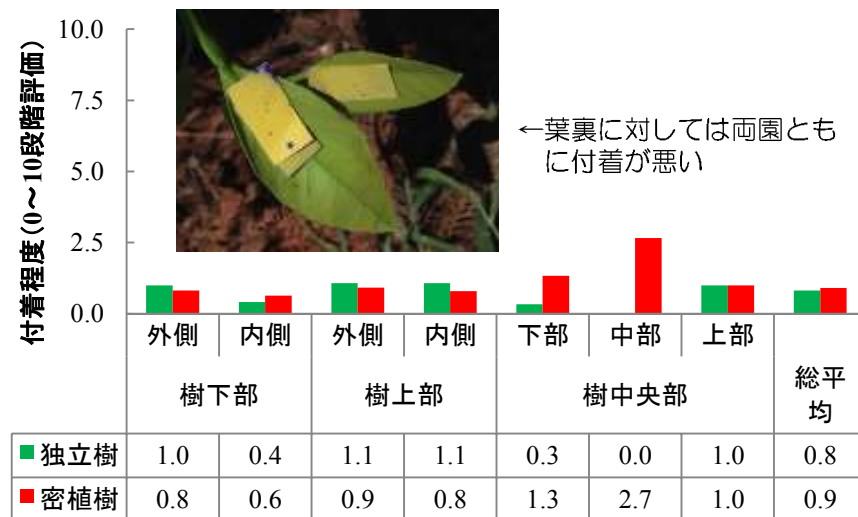


図2 スプリンクラー防除での薬液の付着程度【葉裏】

独立樹では、葉表に対して7割以上の付着程度であったのに対し、密植樹では5割程度の付着であった(図1)。このことから、密植園においてはスプリンクラー防除では十分な効果が上がりにくいと考えられ、縮・間伐による独立樹形の維持が必要であると考えられた。また、葉裏に対しては、両園とも付着程度は低かったことから(図2)、ダニ類やカイガラムシ類等の葉裏にも寄生する害虫に対しては、手散布による補正防除の必要があると考えられた。